



Cisco IP 会議用電話のカスタマイズ

- [カスタム電話呼出音 \(1 ページ\)](#)
- [ダイヤルトーンのカスタマイズ \(3 ページ\)](#)

カスタム電話呼出音

Cisco IP 電話には Chirp1 と Chirp2 という 2 つのデフォルト呼出音（着信音）が付属しており、これらはハードウェアに内蔵されています。Cisco Unified Communications Manager にはいくつかの追加の電話呼出音もデフォルトで付属しており、これらはパルス符号変調（PCM）ファイルとしてソフトウェアに実装されています。PCM ファイル、およびサイトで使用できる呼出音リスト オプションを記述した XML ファイルが、各 Cisco Unified Communications Manager サーバの TFTP ディレクトリに配置されています。



注目 すべてのファイル名で大文字と小文字が区別されます。ファイル名の大/小文字を間違っていると、電話機には変更が適用されません。

詳細については、『[Feature Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager](#)』の「Custom Phone Rings and Backgrounds」の章を参照してください。

関連トピック

[Cisco Unified Communications Manager マニュアル](#)

カスタム電話呼出音のセットアップ

手順

ステップ 1 各カスタム呼出音の PCM ファイルを作成します（ファイルごとに呼出音 1 つ）。

PCM ファイルが「カスタム呼出音のファイル形式」のセクションに示す形式のガイドラインに従っていることを確認します。

ステップ 2 作成した新しい PCM ファイルを、クラスタ内の各 Cisco Unified Communications Manager の Cisco TFTP サーバにアップロードします。

詳細については、該当する Cisco Unified Communications Manager リリースのマニュアルを参照してください。

ステップ 3 修正内容を保存し、Ringlist-wb ファイルを閉じます。

ステップ 4 新しい Ringlist-wb ファイルをキャッシュに入れるには：

- Cisco Unified Serviceability を使用して TFTP サービスを停止し、開始します。
- [拡張サービス パラメータ (Advanced Service Parameters)] 領域にある [起動時の定数および bin ファイルのキャッシングの有効化 (Enable Caching of Constant and Bin Files at Startup)] TFTP サービス パラメータを無効にして、再び有効にします。「」

関連トピック

[Cisco Unified Communications Manager マニュアル](#)

カスタム呼出音のファイル形式

Ringlist-wb.xml ファイルは、電話呼出音タイプのリストを含む XML オブジェクトを定義しています。このファイルには、呼出音タイプを 50 個まで記述します。呼出音タイプごとに、呼出音タイプに使用される PCM ファイルへのポインタ、および Cisco IP 電話の [呼出音タイプ (Ring Type)] メニューに表示されるテキストを記述します。このファイルは、各 Cisco Unified Communications Manager の Cisco TFTP サーバに保持されます。

CiscoIPPhoneRinglist XML オブジェクトは、次の簡単なタグセットを使用して情報を記述します。

```
<CiscoIPPhoneRingList>
  <Ring>
    <DisplayName/>
    <FileName/>
  </Ring>
</CiscoIPPhoneRingList>
```

定義名については、次の規則があります。それぞれの電話呼出音タイプについて、必須の DisplayName と FileName を記述する必要があります。

- DisplayName には、関連付けられた PCM ファイルのカスタム呼出音の名前を指定します。この名前は、Cisco IP 電話の [呼出音タイプ (Ring Type)] メニューに表示されます。
- FileName には、DisplayName に関連付けるカスタム呼出音の PCM ファイルの名前を指定します。



(注) DisplayName フィールドと FileName フィールドは、長さ 25 文字以下にする必要があります。

次に、2 つの電話呼出音タイプを定義した Ringlist-wb.xml ファイルの例を示します。

```
<CiscoIPPhoneRingList>
  <Ring>
    <DisplayName>Analog Synth 1</DisplayName>
    <FileName>Analog1.rwb</FileName>
  </Ring>
  <Ring>
    <DisplayName>Analog Synth 2</DisplayName>
    <FileName>Analog2.rwb</FileName>
  </Ring>
</CiscoIPPhoneRingList>
```

呼出音の PCM ファイルを Cisco IP 電話で正常に再生するには、ファイルが次の要件を満たしている必要があります。

- 未加工の PCM（ヘッダーなし）。
- サンプリング回数：8,000 回/秒。
- 1 サンプルあたり 8 ビット。
- Mu-law 圧縮
- 呼出音の最大サイズ = 16080 サンプル
- 呼出音の最小サイズ = 240 サンプル
- 呼出音のサンプル数 = 240 の倍数。
- 呼出音は、ゼロ交差で開始および終了する。

カスタム呼出音用の PCM ファイルを作成するには、次のファイル形式の要件に対応する任意の標準オーディオ編集パッケージを使用します。

ダイヤル トーンのカスタマイズ

内部コールと外部コールで異なるダイヤル トーンが鳴るように電話機をセットアップできます。必要に応じて、3つのダイヤル トーンのオプションから選択できます。

- [デフォルト (Default)] : 内部コールと外部コールに異なるダイヤル トーンを使用します。
- [内部 (Inside)] : 内部用のダイヤル トーンをすべてのコールに使用します。
- [外部 (Outside)] : 外部用のダイヤル トーンをすべてのコールに使用します。

[常に使用するダイヤル トーン (Always Use Dial Tone)] は、Cisco Unified Communications Manager の必須フィールドです。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] で、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択します。

ステップ 2 該当するサーバを選択します。

ステップ 3 サービスとして [Cisco CallManager] を選択します。

ステップ 4 [クラスタ全体のパラメータ (Clusterwide Parameters)] ペインまでスクロールします。

ステップ 5 [常に使用するダイヤルトーン (Always Use Dial Tone)] を次のいずれかに設定します。

- 外側
- 内側
- デフォルト (Default)

ステップ 6 [保存 (Save)] を選択します。

ステップ 7 電話機を再起動します。
